

特集

乳がん診療の 新しい診断と治療を 理解する

企画協力：片岡正子 京都大学大学院医学研究科放射線医学講座（画像診断学・核医学）講師

乳腺領域の画像診断は、トモシンセシスの加算新設や米国でBI-RADS改訂版が出版予定になっているなど、大きな動きがあります。一方で、リキッドバイオプシーや遺伝子パネル検査といった画像診断以外の乳がん診断技術も注目されています。また、治療においても、早期乳がんに対するラジオ波焼灼療法（RFA）が保険収載されました。そこで、本特集では、乳がん診療における画像診断をはじめとした診断技術と治療技術の最新動向をエキスパートにご解説いただきます。

WOMEN'S IMAGING 2024
BREAST IMAGING
Vol. 19

WOMEN'S IMAGING 2024

BREAST IMAGING Vol. 19

I 総論

乳がん診療の新しい診断と治療を 理解する

片岡 正子 京都大学大学院医学研究科放射線医学講座（画像診断学・核医学）

インナービジョンのBreast Imaging特集号は、最新情報を1冊でまとめて把握できることから、毎年楽しみにしている……と言っていたら、企画協力の話が来てしまった。2023年は、「これからの乳腺画像診断——人工知能（AI）と遠隔医療について学ぼう」ということで、坂佳奈子先生が特集を組まれた。

2024年は、世界的にはAmerican College of Radiology（ACR）Breast Imaging Reporting & Data System（ACR BI-RADS）の第6版が出る、ということが大きな話題である。ここ2年続けて北米放射線学会（RSNA）をはじめ

めとして、いくつかの大きな乳がん関連の学会でその内容が解説されている。もっとも、この原稿を執筆している現時点では第6版は発刊されておらず、最終版を手にすることはできていない。マンモグラフィ、超音波、MRIいずれにおいてもそれなりの変更があり、BI-RADSの新しい内容がわれわれの診療に及ぼす影響も大きいと思われる。

上記BI-RADSの変更に関連した要因としては、この10年の画像診断モダリティの進歩が挙げられる。マンモグラフィの項目で今回大きく取り上げられているdigital breast tomosynthesis

（DBT）もその一例であろう。日本においてもDBT撮影に際して保険点数の加算が2024年6月から導入されたところであり、臨床および検診におけるDBTの導入が世界と同様に進むことが予測される。このDBTであるが、マンモグラフィ以上にメーカー間の違いが大きく、画像集取角などの基本的な性能から、DBTガイド下生検のオプション、合成2Dマンモグラフィが得られるかなど、種々の点に違いがある。もちろん、超音波診断装置もその画質は進歩した。MRIについても、装置の進歩もあって、拡散強調画像（DWI）やultrafast DCE-MRI